

令和4年度 施策評価シート

基準日：令和5年3月31日

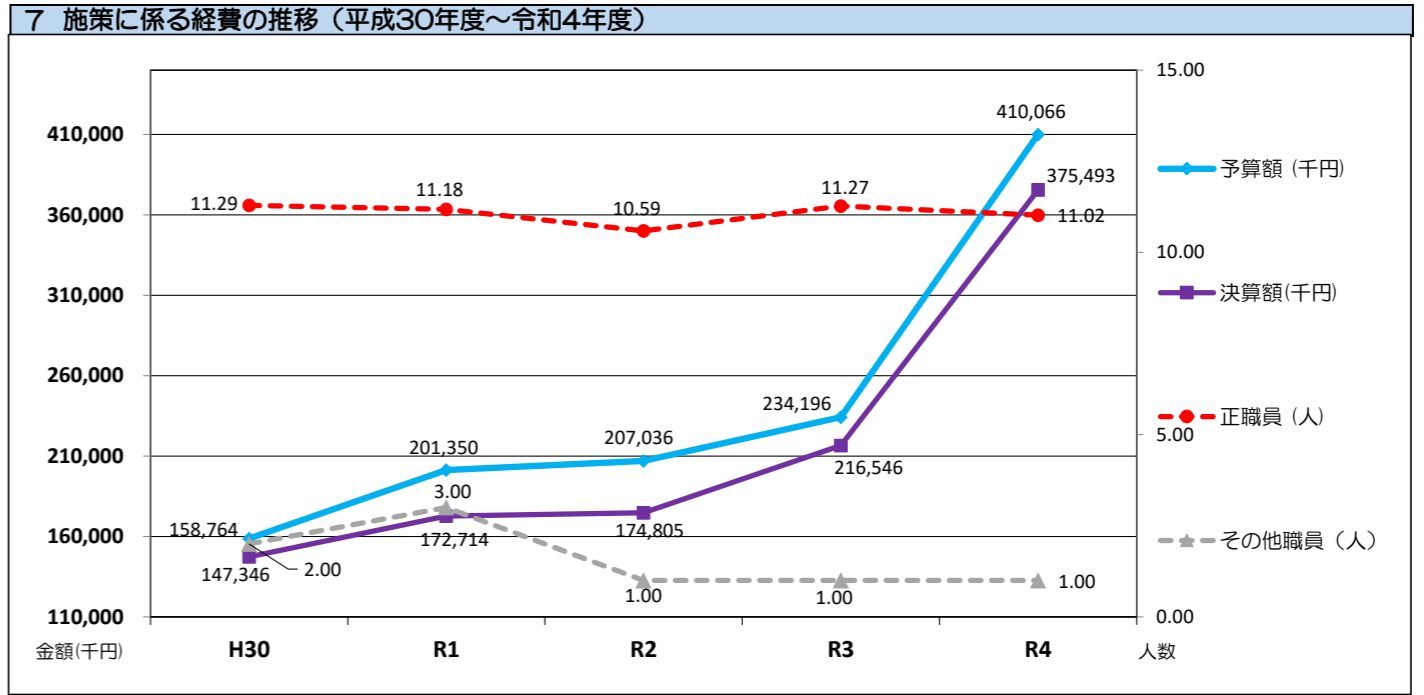
1 政策名および施策名	
政策	5 産業・雇用～活気と魅力あるまちをつくる～
施策	1 農業の振興

2 施策の担当課及び関係課	
担当課	農政課
関係課	-

6 令和4年度の施策に係る経費					
経費(千円)	決算額(千円)	正職員(人)	その他職員(人)	人件費(千円)	市民1人あたり(円/人)
460,547	375,493	11.02	2.00	85,054	8,542

3 施策の目的
農業従事者の高齢化や国の農政改革など、農業を取り巻く環境が変化する中でも、農業を成長産業として捉え、担い手だけでなく地域全体で支え合い、次の世代の人々まで着実に安心して受け継いでいける農業の実現を図ります。

4 前期基本計画(平成30年度～令和4年度)に位置付けている目標指標										
指標名(単位)	年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	評価	
認定農業者数〔10ha以上耕作者〕(人)	目標値		25	28	31	34	37	40	B	
	実績値	24	24	23	22	28	33	33		
農地中間管理機構への貸付面積(ha)	目標値		308	400	450	500	550	600	A	
	実績値	228	330	358	422	470	485	574		
ほ場(30a以上)整備実施済面積(ha)	目標値		1,288	1,310	1,332	1,355	1,378	1,400	A	
	実績値	1,265	1,327	1,327	1,332	1,339	1,341	1,345		
多面的機能活動組織による活動面積(ha)	目標値		520	585	650	715	755	800	C	
	実績値	349	485	542	530	529	529	529		
グリーンツーリズム入込客数(千人)	目標値		280	285	290	300	305	310	C	
	実績値	274	269	262	237	217	225	221		



5 これまでの取り組みと評価(平成30年度～令和4年度)		
(1) 農業後継者・新規就農者の発掘・育成・支援	評価	B
<ul style="list-style-type: none"> ○地域農業の担い手を育成するため、認定農業者を確保(認定農業者数:212人 R5.3未現在) ○新規就農者発掘のため、県農業大学校に通う生徒に授業料等を支援(H30:1名、R1:3名、R2:1名、R3:1名) ○就農直後の新規就農者に対し、資金を交付し経営を支援(国補助10/10)(H30:3名 R1:1名 R2:1名 R3:1名 R4:2名) ○就農直後の新規就農者に対し、経営発展のために機械設備等の導入を支援(国補助1/2 県補助1/4)(R4:1名) ○農業後継者の設備投資等に対する支援(H30:1名 R1:1名 R2:1名) ○経営を継承し、経営の拡大を目指す農業後継者に対する支援(国補助1/2)(R3:2名) ○はにゅう農業担い手育成塾の受け入れ(R1:1名 R2:1名) 		
(2) 担い手への農地集積と生産基盤の整備	評価	B
<ul style="list-style-type: none"> ○農業委員会の農地利用状況調査により遊休農地を確認し、農地の利用集積と遊休農地の発生防止・解消対策を実施 <ul style="list-style-type: none"> ・耕作放棄地解消面積:8.0ha(R5.3未現在) ○公社営埼玉型ほ場整備事業の実施[R3~R4](藤井下組(第1期)地区:4.1ha) ○県営埼玉型ほ場整備事業の実施[R3~R6]井泉大房地区:29.6ha、村君地区:51.4ha ○農業委員・推進委員と連携した農地集積(H30:25.8ha、R1:23ha、R2:31.5ha、R3:0.7ha、R4:5.3ha) 		
(3) 地域特産物の振興と開発	評価	B
<ul style="list-style-type: none"> ○学校給食での地元農産物の拡大に向け、新規出荷者の発掘(H30:栗糴開発 R2:ポヌスファーム R3:風の子ファーム) ○農業体験を通じて羽生の特産物(米・いちご等)をPR(生活がア・三田ヶ谷小・1ヶアガリ・げんき農場羽生・風の子ファーム・07ファーム) ○市内レストランへの地元農産物利用促進の仲介(R1年度:ベルマン) ○いちごの産地復活に向けた観光農園の充実(ロコファーム、げんき農場羽生、タカミヤ) ○6次産業化に取り組む農業者の支援(R2:2件 キヤッカの整備等 R3:2件 じゃが/カッポア/ブ等の購入、キヤッカの整備等) ○地元農産物の販路として新たにふるさと納税返礼品を活用(R2:3件 R3:5件 R4:1件) 		
(4) 地域ぐるみで農村づくり	評価	B
<ul style="list-style-type: none"> ○農業者と地域住民等とが一体となり、地域資源である農地や農業用排水路等の環境を良好に保つための共同活動(農業用水路の清掃や草刈り等)を実施 ・共同活動地区数、活動面積 R2年度:12地区、529.46ha、R3年度:12地区、529.46ha、R4年度:12地区、528.91ha ○農業用排水路の整備や補修工事を行い、良好な営農環境・農村環境を整備 ・用排水路整備延長 R2年度:821m R3年度:548m R4年度:159m 		
(5) 都市と農村の交流による地域活性化	評価	B
<ul style="list-style-type: none"> ○キヤッカ羽生を拠点とした収穫体験により観光交流人口の確保を目指したが、新型コロナウイルスの影響により、来園者数は低迷した。 <ul style="list-style-type: none"> ・コスモフェスティバル集客数(H30:4,500人、R1:2,500人) ・ブルーベリーまつり集客数(R1:1,400人、R2:200人、R3:246人 R4:264人) ・じゃがいも、大根収穫祭集客数(R1:3,000人、R2:788人、R3:1,400人 R4:1,569人) ○チャレンジファームと連携し、アグリフェスを開催(R3:2回 R4:2回) ○三田ヶ谷農林公園の指定管理者を選定 ○観光農園等基本構想計画地への企業参入に向け農地改良(畑地化)を実施。(R1:8.1ha(いちご2.5ha、ルブ5.6ha) R2:3ha(きゅうり、トマト)) ○羽生水郷公園水辺の花畑広場にハーブ園を整備 ○安心して来園いただけるよう、新型コロナウイルス感染拡大防止対策を講じながら、公園運営を実施(マスク、手洗い、消毒の徹底など) 		

8 前期基本計画の評価及び後期基本計画における改善策など	
(1) 前期基本計画における施策の総評	評価
<p>農地中間管理機構への貸付(農地集積)や圃場整備実施面積の確保については、概ね目標どおり推進することができたが、多面的機能活動組織の活動面積、グリーンツーリズム入込客数については目標指標の達成度が低かった。</p>	
(2) 前期基本計画中の新型コロナウイルスの影響	影響度
<p>グリーンツーリズム入込客数(キヤッカ羽生来園者数)は、新型コロナ拡大防止に伴う外出自粛や近隣施設の休館、イベントの休止・縮小等の影響により大きく減少となった。</p>	
(3) 前期基本計画中の問題点及び後期基本計画に残された課題	
<p>本市農業を次世代につなげていくためには、新たな担い手の確保や担い手に選ばれる農地の整備が必要であることから、新規就農や農業後継者に対するきめ細やかな支援や農業基盤の整備を更に推進すると共に、農地中間管理事業を活用した担い手への農地集積・集約を進めるなど営農環境の整備が求められている。さらに、農作業の省力化や自動化への流れを見据え、スマート農業を推進していく必要がある。また、高収益作物への転換や有機農業など環境に配慮した農産物の生産、自ら生産する農作物を活用した6次産業化など付加価値を生む農業経営など、農業者がチャレンジする新たな取組への支援も求められている。農業を通じた都市住民との交流では、拠点となる三田ヶ谷農林公園の来園者が減少傾向にある。サービスを向上し、より多くの方々に来園していただけるよう、指定管理者による適正な管理運営及び魅力アップを図る必要がある。</p>	
(4) 後期基本計画における課題解決に向けた取り組みと改善策	
<ul style="list-style-type: none"> ○県、地域と連携した農業基盤整備の推進 ○多面的機能支払交付金のPR、新規取組地区の掘り起こしの継続 ○三田ヶ谷農林公園周辺観光施設、チャレンジファームとの連携強化 ○指定管理者によるキヤッカ羽生の運営及び提供サービスの充実 	

令和4年度 施策評価シート

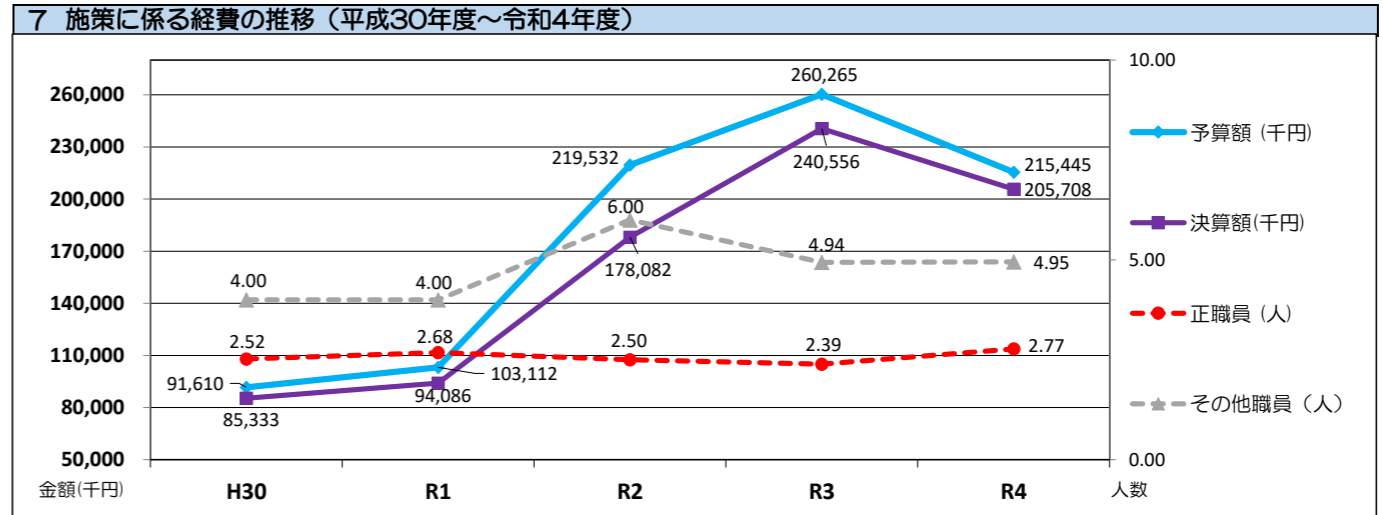
基準日：令和5年3月31日

1 政策名および施策名	
政策	5 産業・雇用～活気と魅力あるまちをつくる～
施策	2 商工業の振興

2 施策の担当課及び関係課	
担当課	商工課
関係課	-

6 令和4年度の施策に係る経費					
経費(千円)	決算額(千円)	正職員(人)	その他職員(人)	人件費(千円)	市民1人あたり(円/人)
234,899	205,708	2.77	4.95	29,191	4,357

3 施策の目的	
活気や賑わいにあふれた魅力ある商店街づくりを行い、市民が地元で便利に買い物ができるようにするとともに、地場産業をはじめとする企業活動が盛んなまちにします。	



4 前期基本計画(平成30年度～令和4年度)に位置付けている目標指標										
指標名(単位)	年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	評価	
卸売業・小売業の事業所数(事業所)	目標値		619	619	619	622	622	625	A	
	実績値	(616)	615	624	624	624	624	624		
製造品出荷額(億円)	目標値		2,430	2,444	2,458	2,472	2,486	2,500	S	
	実績値	(2,417)	2,417	2,625	2,710	2,789	2,739	2,916		
「創業支援事業計画」を活用した創業者数(件数)	目標値		6	6	7	7	8	8	C	
	実績値	5	2	2	4	4	3	5		

5 これまでの取り組みと評価(平成30年度～令和4年度)		
(1) 商工団体との連携による賑わいづくり	評価	A
<ul style="list-style-type: none"> ○商工会支援事業 <ul style="list-style-type: none"> ・商工会が行うプレミアム付き商品券への補助 H30:5,000千円 R1:5,000千円 R2:69,500千円 R3:23,500千円 R4:35,000千円 ○商店街賑わいづくり支援事業 <ul style="list-style-type: none"> ・商店街空き店舗対策モデル事業補助金交付実績 H30:0件 R1:2件 R2:3件 R3:2件 R4:3件 ・空店舗相談件数 H30:8件 R1:4件 R2:5件 R3:6件 R4:4件 ・MALL DESIGN実行委員会(MD)を組成 R1:45名 R2:59名 R3:76名 R4:94名 ○市民プラザ管理運営事業 <ul style="list-style-type: none"> ・市民プラザの適正な管理運営 H30:利用件数4,051件 利用者数112,888人 R1:利用件数3,340件 利用者数81,078人 R2:利用件数1,907件 利用者数35,456人 R3:利用件数2,192件 利用者数57,161人 R4:利用件数1,912件 利用者数41,443人 		
(2) 市内企業に対する支援	評価	A
<ul style="list-style-type: none"> ○融資あっせん・利子補給事業 <ul style="list-style-type: none"> ・小規模事業者の事業振興を図るため、セーフティネット・危機関連保証認定を実施 R2:519件 R3:23件 R4:29件 ・市小口融資 R1年度末融資残高:23,560,000円 R2年度末:10,773,000円 R3年度末:7,188,000円 R4年度末:7,056,000円 ・利子補給 H30:169件 3,772,870円 R1:171件 3,529,860円 R2:156件 2,722,560円 R3:115件 1,895,490円 R4:87件 1,419,870円 ○住宅改修補助金交付事業 <ul style="list-style-type: none"> ・市民の消費を促し、市内事業者の振興を図るため、住宅の改修を行った市民に対して住宅改修補助を実施 H30:65件 4,541,000円 R1:83件 5,980,000円 R2:82件 5,929,000円 R3:138件 10,014,000円 R4:119件 8,626,000円 ○市内企業の事業継続のための支援 <ul style="list-style-type: none"> ・信用保証料補助金 R2:25件 4,596千円 R3:6件 399千円 ・事業継続・家賃支援補助金 R2:102件 12,450千円 ・活力支援・経営支援補助金 R3:518件 63,950千円 ・飲食店特化型プレミアム付商品券 R2:11,000千円 R3:18,500千円 ・とまり木パークプロジェクト 出店代表者数 R3:7名 R4:5名 		
(3) 地場産業の活性化	評価	B
<ul style="list-style-type: none"> ○藍染製品PRの推進 <ul style="list-style-type: none"> ・プラザふれ藍ショップを運営 販売額 H30:399点 927,235円 R1:272点 722,982円 R2:177点 415,877円 R3:174点 511,218円 R4:150点 486,530円 ・市民プラザでの体験者数 H30:926人 R1:739人 R2:288人 R3:657人 R4:662人 ・H25年10月から富士河口湖湖畔で藍染製品の展示・販売 ・埼玉WABISABI大祭典に出展し、藍染製品の展示・販売・ワークショップ H30、R3:2日間 R1、2:出展無 ・ラグビーW杯熊谷開催おもてなしエリア・W杯100日前イベントに出展し、藍染製品の展示・販売・ワークショップ(R1)4日間 ・東京オリンピック・パラリンピック1年前イベントに出展し、藍染製品の展示・ワークショップ(R1) ・全国プレゼンテーションコンクールin羽生、藍のまちさわやか羽生マラソン大会に出展し、藍染製品の展示・販売(H30、R1) ○被服・織物産業振興事業 <ul style="list-style-type: none"> ・H29年1月から駅自由通路内のショーケースにおいて、産地産業振興協議会の構成団体が製品を展示 ・世界キャラクターさみっことin羽生において、産地産業振興協議会の構成団体が製品を展示・販売 		
(4) 創業支援の推進	評価	B
<ul style="list-style-type: none"> ○創業支援ワンストップ相談窓口事業 ・相談件数 H30:10件 R1:10件 R2:8件 R3:8件 R4:7件 ・創業支援事業を活用し創業した件数(延べ件数) H30:9件 R1:11人 R2:14人 R3:24人 R4:20人 ○創業支援セミナー開催事業 <ul style="list-style-type: none"> ・創業支援セミナー及び交流会の開催を支援し、市内で創業する方の支援を実施 参加者数 H30:16人 R1:15人 R2:11人 R3:20人 R4:21人 ・女性向け創業セミナーを開催 参加者数 H30:9人 R1:19人 R2:8人 R3:16人 R4:16人 ・シニア向け創業セミナーを開催 参加者数 R1:7人 R2:19人 R3:19人 R4:19人 ○羽生市創業支援事業補助金交付事業 <ul style="list-style-type: none"> ・H30:2件2,000,000円 R1:4件2,810,000円 R2:4件2,772,000円 R3:3件2,138,000円 R4:5件4,145,000円 ○羽生市創造的企業育成補助金交付事業 ・H30年度:0件0円 R1:1件270,000円 R2:1件22,000円 R3:無 R4:無 ○チャレンジショップ出店者数 H30～R2:休業 R3:2件 R4:2件 ○創業機運醸成事業 R3:11人 R4:16人 		

8 前期基本計画の評価及び後期基本計画における改善策など	
(1) 前期基本計画における施策の総評	評価
プレミアム付商品券事業や埼玉県NEXT商店街プロジェクトに採択され、MALL DESIGN実行委員会を組織化し、市内商店街の活性化策を進めることができた。また、地場産業の活性化として藍染振興を広くPRすることができた。	A
(2) 前期基本計画中の新型コロナウイルスの影響	影響度
○新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、中止となったイベントが多くあり、当初の目的とおりの達成とはならなかった。一方で、国の交付金を活用し、市内事業者に支援を行うための各種補助制度を実施した。	中
(3) 前期基本計画中の問題点及び後期基本計画に残された課題	
○依然として市内中小企業者等は、厳しい経営状況が続いているため、商工会や商工団体、企業、大型店舗などと更なる連携を図ることによる商工業の振興が必要である。 ○市内零細事業者は、後継者不足に悩んでいることから、これらへの持続化のための支援が課題である。 ○キャッシュレス決済の導入など、DX化に向けた消費者と事業者の必要性の認識がアンマッチ。	
(4) 後期基本計画における課題解決に向けた取り組みと改善策	
○各種商工団体等の活動に対する支援 ○起業家に対する支援 ○課題解決に有意義な情報の発信(事業者向けLINE配信サービスの活用)	

令和4年度 施策評価シート

基準日：令和5年3月31日

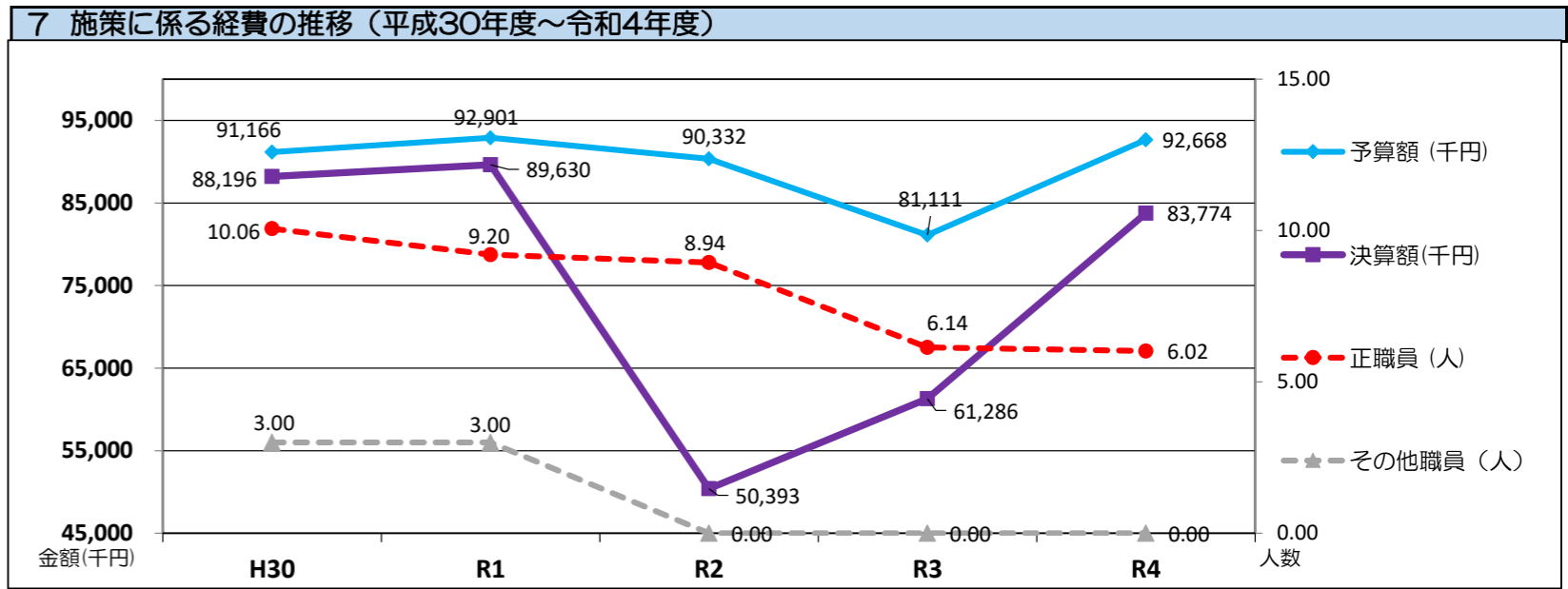
1 政策名および施策名	
政策	5 産業・雇用～活気と魅力あるまちをつくる～
施策	3 観光の振興

2 施策の担当課及び関係課	
担当課	観光プロモーション課
関係課	商工課、農政課

6 令和4年度の施策に係る経費					
経費(千円)	決算額(千円)	正職員(人)	その他職員(人)	人件費(千円)	市民1人あたり(円/人)
129,448	83,774	6.02	0.00	45,674	2,401

3 施策の目的
羽生らしい地域資源を観光や特産品など多様に活用し、「羽生らしさ」を伝え、地域が元気になる観光を実現することにより、地域の活性化を推進し、観光交流人口100万人を実現します。

4 前期基本計画(平成30年度～令和4年度)に位置付けている目標指標									
指標名(単位)	年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	評価
観光交流人口(万人)	目標値		75	80	85	90	95	100	C
	実績値	66	77	73	54	31	33	38	
推奨品の認定数(品目)	目標値		70	78	80	80	80	80	C
	実績値	65	78	78	68	68	62	48	
	目標値								
	実績値								



5 これまでの取り組みと評価(平成30年度～令和4年度)	
(1) 観光資源の発掘と充実	評価 B
<p>○ロケーションサービスについて、平成28年度の「5件」から令和4年度の「13件」と急増している。引き受ける体制を広げた結果、以前撮影した制作者からのリピートが増えているので継続していく。</p> <p>○藍染体験事業について、市民プラザでの体験者数は減少傾向であったが、昨今の「見て来て触って」という体験志向により令和3年度からコロナ前の水準に近づいてきている。</p>	
(2) 観光拠点の充実	評価 B
<p>○道の駅イベントを継続開催させPRを図る。</p> <p>○金山町、富士河口湖町との広域観光連携を図り、令和元年度にはムジナもんファンクラブ加盟店として、金山町10店、富士河口湖町11店加盟していただき、相互連携を高めている。</p> <p>○キャッセ羽生では、収穫体験のメニューを増やすなど体験型メニューの充実を図った。また、三田ヶ谷農林公園の令和5年からの指定管理者制度導入に向け、指定管理者を選定した。</p> <p>○観光農園の整備による羽生インター周辺の観光拠点の充実を図った。</p>	
(3) 観光活動推進団体の活動促進	評価 B
<p>○観光人材育成支援事業として世界キャラクターさみっとin羽生実行委員会によりキャラクターイベント開催による観光客誘致を図っている。また、着ぐるみアクターを行うムジナもん応援団が各種イベントへ積極的に参加している。</p> <p>○観光協会活性化事業として令和元年度に観光協会を法人化し、羽生の魅力発信のために新たな観光事業の展開を図っている。また、各団体や地域と連携した通年行事やイベント(夏まつり等)の開催についても引き続き行っている。</p>	
(4) 観光PRの推進	評価 B
<p>○「世界キャラクターさみっとin羽生」の開催により羽生の知名度向上に寄与した。今後は平成30年度に結んだキャラクターでつながる友好交流宣言を活用し、新しい観光につなげていく。</p> <p>○情勢やトレンドに応じたPRを講じるために研修を行っている。主にYouTubeによる動画配信による観光PRに注力している。</p>	
(5)	評価

8 前期基本計画の評価及び後期基本計画における改善策など	
(1) 前期基本計画における施策の総評	評価 B
<p>羽生市の地域資源を活用した観光、イベント、体験等を実施したことで、観光交流人口を確保することと羽生の魅力発信につなげた。</p>	
(2) 前期基本計画中の新型コロナウイルスの影響	影響度 大
<p>新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、イベント、体験教室の中止、縮小したものが多数あったため、目標指数の達成率は低くなった。</p>	
(3) 前期基本計画中の問題点及び後期基本計画に残された課題	
<p>感染症拡大防止による人流の抑制の影響が大きく観光交流人口が減少した。今後はWITHコロナにおける観光事業をどう展開するか、どうPRするかを情勢やトレンドに応じて行っていくことができる柔軟な体制を創り出していくことが必要となる。</p> <p>道の駅にはゆう次期指定管理者選定に向けて、適正な手続きを行う。</p>	
(4) 後期基本計画における課題解決に向けた取り組みと改善策	
<p>○既存の観光資源の更なる周知と有効活用及び新たな観光資源を創出する。</p> <p>○積極的な市のPRを行うため、HP、ツイッター等の充実を図るとともに、地域資源・商品の魅力を伝える映像・動画の作成を行う。</p> <p>○観光ビジョンの策定</p> <p>○観光協会の法人に伴いイベントの見直し</p> <p>○ふるさと応援寄付金事業を活用したPR</p> <p>○地場産業としての「武州正藍染」のPR</p> <p>○羽生市民プラザ藍染体験事業のPR</p> <p>○指定管理者によるキャッセ羽生の適正な管理運営及び魅力アップを図る。</p> <p>○チャレンジファーム参入事業者と連携したサービスの充実を図る。</p>	

令和4年度 施策評価シート

基準日：令和5年3月31日

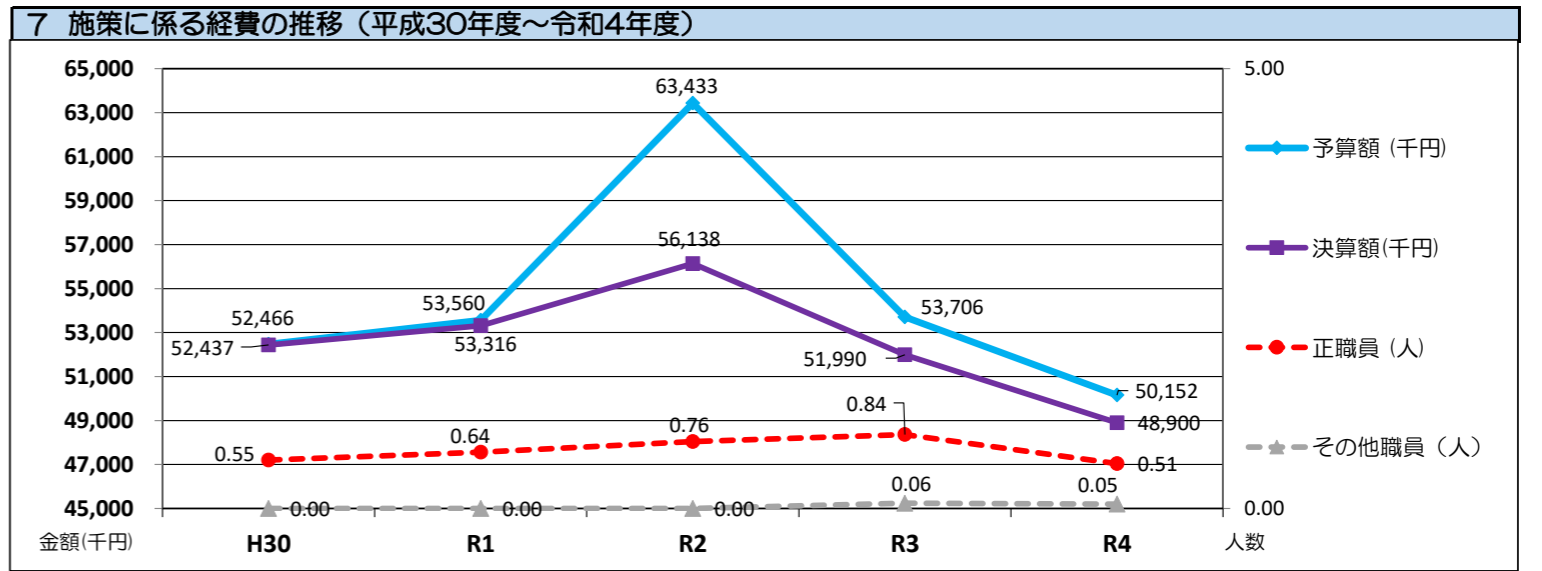
1 政策名および施策名	
政策	5 産業・雇用～活気と魅力あるまちをつくる～
施策	4 勤労者支援・雇用の促進

2 施策の担当課及び関係課	
担当課	商工課
関係課	-

6 令和4年度の施策に係る経費					
経費(千円)	決算額(千円)	正職員(人)	その他職員(人)	人件費(千円)	市民1人あたり(円/人)
52,896	48,900	0.51	0.05	3,996	981

3 施策の目的
多様化する労働環境に対応した労働行政を推進するとともに、若者から中高年までの雇用企画の創出や就労促進を図ることにより、市民の誰もが安心して働くことができるようにします。

4 前期基本計画(平成30年度～令和4年度)に位置付けている目標指標										
指標名(単位)	年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	評価	
羽生市ふるさとハローワーク就職率(%)	目標値		36	37	39	40	41	42	S	
	実績値	35	34	41	35	29	38	76		
羽生市シルバー人材センター会員数(人)	目標値		338	340	343	345	348	350	B	
	実績値	335	320	334	334	327	306	303		
市内従業員数(人)	目標値		24,384	24,384	24,384	24,443	24,443	24,500	A	
	実績値	(24,325)	23,732	23,303	23,303	23,303	23,303	23,303		



5 これまでの取り組みと評価(平成30年度～令和4年度)	
(1) 就業支援の充実	評価 B
<ul style="list-style-type: none"> ○羽生市ふるさとハローワーク等との連携 <ul style="list-style-type: none"> ・ハローワークの更なる利用促進のため、広報に就職相談、ハローワーク周知記事の掲載 ○内職相談事業 <ul style="list-style-type: none"> ・相談件数 H30:43件 R1:50件 R2:50件 R3:36件 R4:41件 ○就労支援セミナー事業 <ul style="list-style-type: none"> ・就労支援セミナー H30:24回135人 R1:16回130人 R2:9回110人 R3:4回57人 R4:7回99人 ・県共催セミナー、相談の実施 埼玉県労働セミナー:H30:20人 R1:17人 R2:10人 R3:179人 R4:18人 ・家族のためのセミナー R1:参加者4人、出張プレ相談4人 R3:参加者3人、出張プレ相談3人 ○各種就労支援事業 <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者、障害者などの雇用支援事業に関するチラシの配布・掲示 	
(2) 就労機会の創出	評価 B
<ul style="list-style-type: none"> ○行田地区雇用対策協議会事業 <ul style="list-style-type: none"> ・行田地域若年者就職面接会 H30:応募企業30社 参加者23人 R1:応募企業19社 参加者51人 ・行田地域就職面接会 R2:応募企業13社 参加者58人 R3:応募企業6社 参加者69人 R4:応募企業7社 参加者38人 ・シニア向け就職面接会 R2:応募企業6社 参加者39人 R3:応募企業6社 参加者26人 R4:応募企業6社 参加者31人 ○羽生市シルバー人材センター支援事業 <ul style="list-style-type: none"> ・社会参加の意欲のある高齢者のために就業等の活動機会を確保・提供する事業に対する支援 ・H27よりシルバー派遣事業を本格実施 	
(3) 安心して働ける環境の整備	評価 B
<ul style="list-style-type: none"> ○中小企業従業員退職金等共済事業 <ul style="list-style-type: none"> ・従業員の福祉の増進を図るため、中小企業に対する退職金共済制度の適正な運営 H30:70事業所 加入者391人 口座1,917口 R1:67事業所 加入者375人 口座1,800口 R2:62事業所 加入者330人 口座1,574口 R3:57事業所 加入者306人 口座1,455口 R4:56事業所 加入者287人 口座1,358口 ○ワークヒルズ羽生管理運営事業 <ul style="list-style-type: none"> ・指定管理者によるワークヒルズ羽生の適正な管理運営 H30:利用件数2,472件 利用者数55,829人 R1:利用件数2,319件 利用者数50,995人 R2:利用件数1,557件 利用者数15,953人 R3:利用件数1,907件 利用者数76,817人 R4:利用件数2,245件 利用者数30,839人 ○雇用継続の取組 <ul style="list-style-type: none"> ・雇用調整助成金申請支援補助金 R2:43件3,555千円 R3:9件723千円 	
(4)	評価
(5)	評価

8 前期基本計画の評価及び後期基本計画における改善策など	
(1) 前期基本計画における施策の総評	評価 B
<p>ハローワーク行田、埼玉県との連携により就業支援事業を着実に実施できた。労働環境整備として、勤労者福祉の増進のため、ワークヒルズ羽生の運営を適切に行うことができた。</p>	
(2) 前期基本計画中の新型コロナウイルスの影響	影響度 中
<p>特に令和2年度は、就労セミナー、就職面接会が中止となるケースが多かったため、実績が少なかった。ワークヒルズ羽生も閉館した時期もあったため、利用件数が例年より少なかった。一方で、国の交付金を活用し、市内事業者へ支援を行うための各種補助制度を実施した。</p>	
(3) 前期基本計画中の問題点及び後期基本計画に残された課題	
<p>勤労者を取り巻く環境は変化し、テレワーク、働き方改革、同一労働同一賃金、外国人労働者への対応など、様々な課題がある。</p>	
(4) 後期基本計画における課題解決に向けた取り組みと改善策	
<ul style="list-style-type: none"> ○ハローワーク行田、埼玉県等と連携した就職支援の充実 ○羽生市中小企業従業員退職金共済制度の安定化に向けた加入促進 ○労働環境の改善を、関係機関を通じて周知改善 	

令和4年度 施策評価シート

基準日：令和5年3月31日

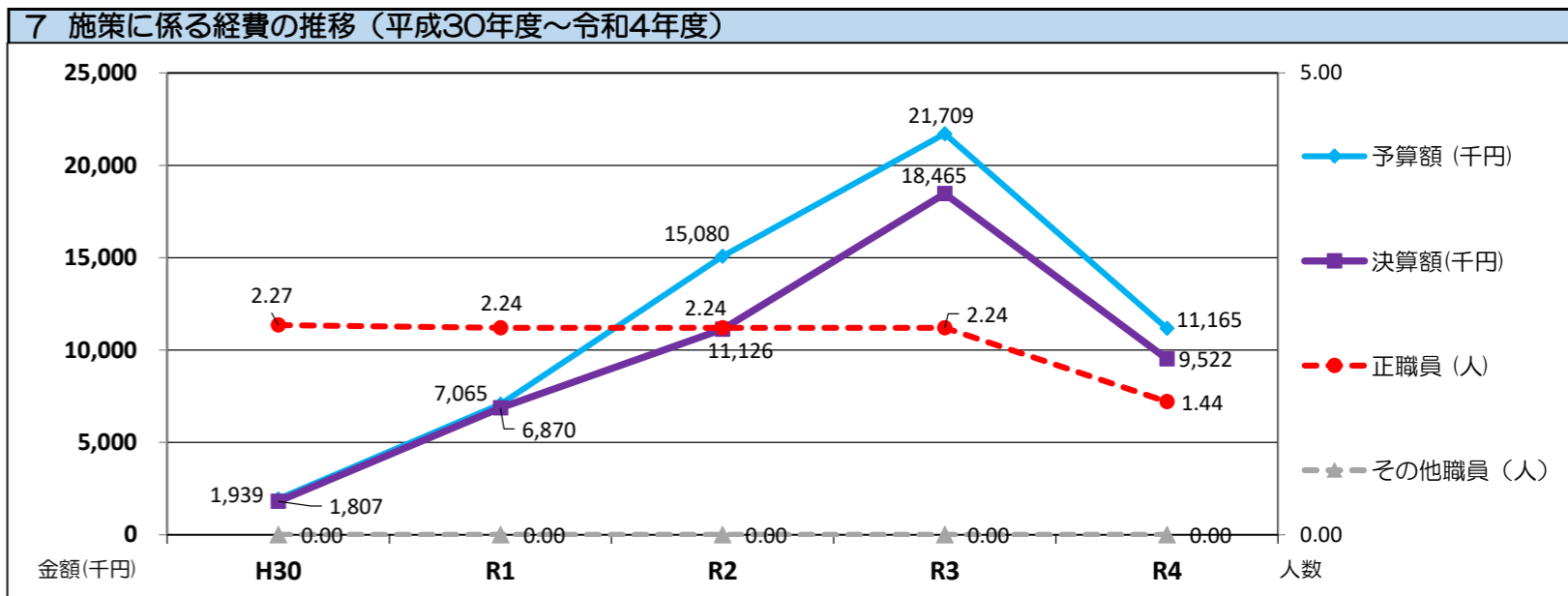
1 政策名および施策名	
政策	5 産業・雇用～活気と魅力あるまちをつくる～
施策	5 企業誘致の推進

2 施策の担当課及び関係課	
担当課	企業誘致推進課
関係課	-

6 令和4年度の施策に係る経費					
経費 (千円)	決算額 (千円)	正職員 (人)	その他職員 (人)	人件費 (千円)	市民1人あたり (円/人)
20,448	9,522	1.44	0.00	10,926	379

3 施策の目的
新たな企業の誘致及び既存企業の市内拡張を積極的に進め、働く場の創出や税収の確保につなげるとともに、企業活動を活性化させ市内経済の活性化を実現します。

4 前期基本計画（平成30年度～令和4年度）に位置付けている目標指標									
指標名(単位)	年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	評価
北袋[都市計画法第34条12号指定区域]企業立地割合(%)	目標値		50	52	56	60	64	68	S
	実績値	47	51	53	61	77	77	77	
企業立地件数(社) [開発許可等取得件数含む]	目標値		-	5	10	15	20	25	S
	実績値	-	7	12	18	33	37	44	
	目標値								
	実績値								



5 これまでの取り組みと評価（平成30年度～令和4年度）	
(1) 企業誘致活動の積極的な展開	評価 A
○企業誘致促進事業 ・事業用地情報や企業立地優遇制度についてホームページで情報発信を行った。 ・企業訪問や市内外の企業へのダイレクトメール便等により市内への立地に向けた情報発信を行った。(R4年度企業訪問12社)、(R2年度アンケート送付企業139社、回答企業37社、回答率26.6%) ○新たな工場等の立地を検討する企業からの相談に対して、関係各課と連携して対応した。 ○企業立地優遇制度の検討 ・市内での企業誘致を効果的に進めるため、北袋地区以外の新たな優遇制度について情報収集を行った。	
(2) 新たな工業用地の創出・確保	評価 A
○工業系市街地の創出（上岩瀬地区） ・上岩瀬地区については、農林調整、都市計画変更が完了し、市街化区域に編入した。用地買収も完了し、令和3年度より企業局による整備工事が始まり、令和4年度に完了し、令和5年3月末に立地企業への土地の引渡しが行われた。 ○開発許可制度を活用した新たな工業用地の確保 ・開発事業者に対して企業立地の可能性のある土地（北袋地区を除く）に関する助言を行い、開発許可所得にかかる手続き等について関係各課と調整の場を設けるなど総合窓口としてワンストップサービスを実施した。都計法34条12号指定区域7カ所（竣工済5カ所、工事中2カ所） ・北袋地区の12号指定はR2.12.28で解除	
(3)	評価
(4)	評価
(5)	評価

8 前期基本計画の評価及び後期基本計画における改善策など	
(1) 前期基本計画における施策の総評	評価 A
埼玉県との共同事業である上岩瀬地区産業団地整備が事業化され令和4年度で整備が終わり、立地企業への土地引渡しが完了した。また、北袋地区も新たな立地により土地利用が推進され、企業立地件数も目標指標の達成度が高かった。	
(2) 前期基本計画中の新型コロナウイルスの影響	影響度 小(なし)
なし	
(3) 前期基本計画中の問題点及び後期基本計画に残された課題	
市内にある既存の3つの工業・産業団地は全て活用されており、また、新たに創出された2つの地区（上岩瀬地区、岩瀬区画整理北工区）につきましても立地企業が決定し、一部工事が着工された。このため、企業誘致を推進するための用地が不足しており、新たな産業系として利用可能な用地の確保が課題となっている。	
(4) 後期基本計画における課題解決に向けた取り組みと改善策	
○市内での企業立地に向けた情報発信を行う。 ○上岩瀬産業団地の進出企業の稼働に向け必要な支援を実施する。 ○主要国道沿道において、民間活力を活用し新たな産業用地の創出に向けた取組の実施。	

令和4年度 施策評価シート

基準日：令和5年3月31日

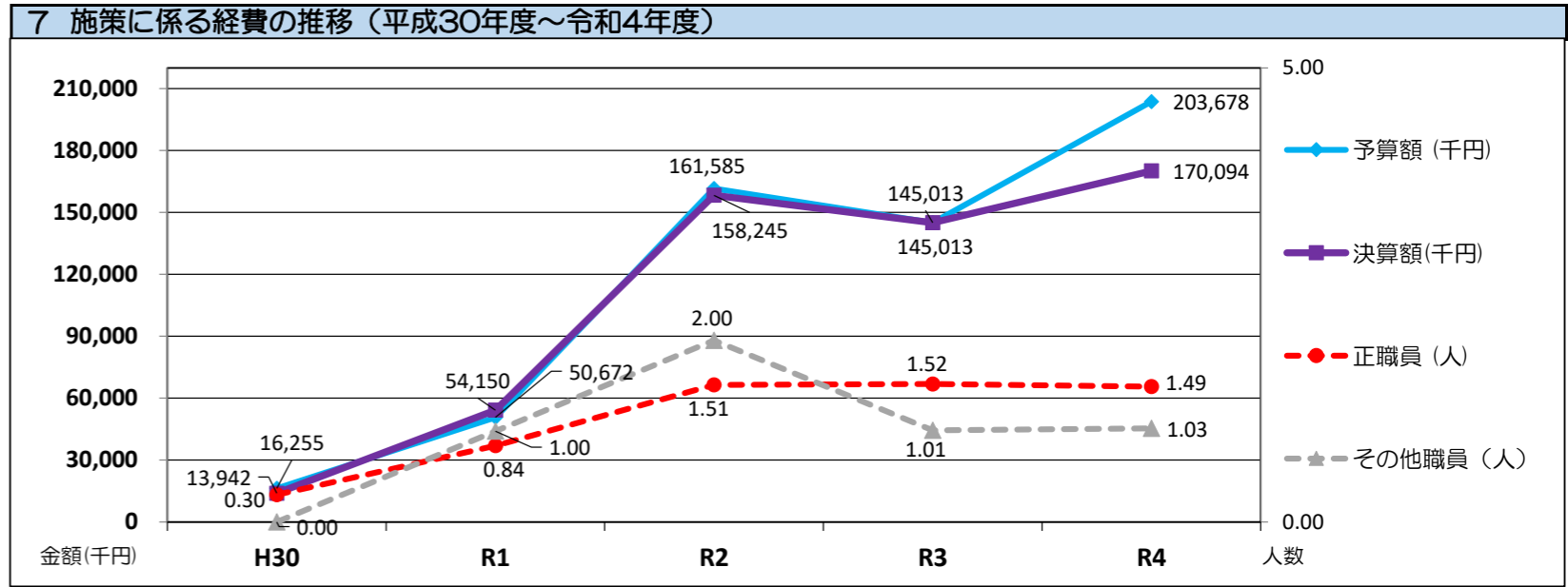
1 政策名および施策名	
政策	5 産業・雇用～活気と魅力あるまちをつくる～
施策	6 シティプロモーションの推進

2 施策の担当課及び関係課	
担当課	観光プロモーション課
関係課	秘書広報課、企画課、商工課、農政課

6 令和4年度の施策に係る経費					
経費 (千円)	決算額 (千円)	正職員 (人)	その他職員 (人)	人件費 (千円)	市民1人あたり (円/人)
182,920	170,094	1.49	1.03	12,826	3,393

3 施策の目的
本市に住むことを誇りに感じ、推奨する人を増やすとともに、本市の魅力を戦略的に発信し、観光交流人口や流入人口の増加につなげます。

4 前期基本計画（平成30年度～令和4年度）に位置付けている目標指標									
指標名 (単位)	年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	評価
ホームページ閲覧件数 (件)	目標値		540,000	540,000	550,000	560,000	570,000	580,000	S
	実績値	530,678	601,708	652,026	737,749	1,271,736	1,355,757	1,066,322	
SNS登録者数 (人)	目標値		2,200	2,360	2,520	2,680	2,840	3,000	S
	実績値	2,005	2,053	2,116	2,271	3,685	18,704	20,945	
	目標値								
	実績値								



5 これまでの取り組みと評価（平成30年度～令和4年度）	
(1) シティプロモーションの推進	評価 S
<p>○コンテンツマネジメントシステム（CMS）を導入したホームページによって、情報を迅速かつ効果的に発信しているが、コロナウイルスが落ち着いたことにより閲覧件数が減少している。</p> <p>○SNS（市公式LINE）を活用してコロナワクチン接種予約を促進したことにより、登録者が急増した。多くの市民がLINEの発信を見ることができ、最新情報の発信がより行き届くようになった。</p>	
(2) 地域ブランドの推進	評価 A
<p>○藍染製品PRの推進として、市民プラザ内のふれ藍ショップにて藍染製品を販売している。また、富士河口湖町でも藍染製品の展示、販売を行っている。</p> <p>○ふるさと納税返礼品提供事業者による新たなブランド創出を支援している。</p> <p>○令和2年度には羽生市内のいいものを開発するにあたり補助金を創設し5店舗が羽生いいものの開発に取り組み製品化した。新たにふるさと納税返礼品として加わったものもあり効果があったと考えられる。</p> <p>○ラグビーW杯熊谷開催おもてなしエリア・W杯100日前イベントや東京オリンピック・パラリンピック1年前イベントに出展し、藍染製品の展示・ワークショップを実施した。</p>	
(3)	評価
(4)	評価
(5)	評価

8 前期基本計画の評価及び後期基本計画における改善策など	
(1) 前期基本計画における施策の総評	評価 A
<p>市の魅力発信を効果的に行うため、ホームページやSNS等の活用により、積極的に情報発信ができたので目標指数の達成度が高かった。</p>	
(2) 前期基本計画中の新型コロナウイルスの影響	影響度 中
<p>新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、イベントの中止、縮小により、市の農産物等のPRが減少した。</p>	
(3) 前期基本計画中の問題点及び後期基本計画に残された課題	
<p>SNSを代表とするスマートフォンを基軸とした情報発信についてトレンドに応じた対応をすることが現状の体制であると困難である場合が多い。公務員YouTuberに代表されるよう個人が積極的に発信を行う場面も今後は増えてくると考えられる。それらを積極的に活用していける組織や個人が輝ける環境を整備していくことが必要となる。</p>	
(4) 後期基本計画における課題解決に向けた取り組みと改善策	
<ul style="list-style-type: none"> ○各媒体を活用し市のPRを推進 ○農商工連携によるブランド化の推進 ○市ホームページリニューアルの検討 ○地域ブランド力の強化 ○地場産業を活用した新商品の開発支援 ○ふるさと応援寄付金事業を活用したPR ○藍染製品PRの推進 <ul style="list-style-type: none"> ・イベントへの参加及び開催（羽生市の藍染を市内に、市外に、そして世界に発信） ○農商工連携による商品化の研究・支援 <ul style="list-style-type: none"> ・農産物を取り入れた商品開発及び藍染を活用した衣料品・工芸品等の商品開発 	